

教えて! 新型コロナワクチン接種について

●ワクチンの副反応って?

副反応はワクチン接種が原因で起こる反応のことです。2回目の接種は、1回目の接種よりも強い副反応が起こることがあります。

どれくらいで出る?

接種した1~2日後に副反応が出るがありますが、ほとんどは接種後数日以内に回復します。

接種当日と翌日は、可能であれば予定を空けておくことをおすすめします。

症状

主に、注射部位の痛み・筋肉痛、だるさ、頭痛、発熱、悪寒などです。必要な場合は、解熱鎮痛剤を服用いただくなどして様子を見てください。

≡ こんな時は医療機関に相談 ≡

- 接種後2日以上たっても熱が下がらない
- 症状が重い など



ワクチン接種後、
体に異常があるときの相談先

東京都新型コロナウイルスワクチン
副反応相談センター
☎03-6258-5802
(24時間対応。土・日曜、休日を含む)



●アナフィラキシーって?

薬や食べ物が体に入ってから、短時間で起きることのあるアレルギー反応です。特定のワクチンだけに起きるものではなく、さまざまな医薬品やワクチン投与後に報告されています。

症状

じんま疹などの皮膚症状、腹痛やおう吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状

アナフィラキシーショック

上記の症状に、血圧の低下や意識レベルの低下を伴うことをいいます。

もしもの時に

接種後に、アナフィラキシーが起こっても、すぐに対応ができるよう、接種会場や医療機関では医薬品などの準備をしています。

医師が対応できるよう接種後、15分か30分(問診による)以上、接種会場で待機していただきます。

●ワクチンの効果って?

新型コロナワクチンは
2回接種で発症予防効果 約95%

ファイザー社約95%(*)、武田/モデルナ社約94%(*)
※出典:厚生労働省HP「新型コロナワクチンQ&A」

接種した人の発症率が、接種しなかった人の発症率よりも95%少なくなる効果が確認されています。

100人中95人に効くという意味ではありません。

これから新型コロナワクチン接種を受けられる方へ



館田一博教授

東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授
/政府新型コロナウイルス
感染症対策分科会メンバー

多くの人たちの努力で、新型コロナワクチンの接種が日本でも進んできました。ワクチン接種が感染の防止や病気の発症だけでなく、重症化も抑制できることが明らかになっています。さらに、最近話題となっている変異株に対しても一定の効果がみられることが分かってきました。

同時に、副反応についても報告がされてきました。副反応と聞くと不安になられる方もいるかもしれませんが、これまでに得られている結果から、「リスク」(ワクチンに伴う危険)と「ベネフィット」(ワクチンで得られる有益な効果)の評価で、確実に後者が上回っていることが明らかになっています。

今回の区報は、大田区で使用されるワクチンの効果と副反応について科学的に分かっていることが見やすくまとま

っています。副反応は、ウイルスと戦う武器(抗体)を、体が作る中で起きる免疫の反応です。この抗体ができると、ご自身が発症する可能性、ほかの方(接種できない方にも)にうつす可能性を減らすことができます。ワクチンをよりたくさんの方が接種することで、国内の患者数を減らしていくことができると考えられます。

ワクチンは、今まで行ってきた予防策に加えて人類が得ることができた新たな、そして極めて有効な予防手段です。これらの手段をうまく活用することで、コロナ禍前の生活にまた一歩近づけると考えています。



▲館田教授からのメッセージ動画はコチラ

「新型コロナワクチン接種のご案内」の音声版・点訳版を
地域庁舎、障害福祉課、さぽーとぴあに用意します

がいこくじん
のかたへ

しんがたころなわくちんせつしゅ
新型コロナワクチン接種のお知らせ
おおたくほーむぺーじ
大田区ホームページを見てください

